

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月9日

上場会社名 旭有機材工業株式会社

コード番号 4216 URL <http://www.asahi-yukizai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐次 洋一

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長

(氏名) 岡本 忠久

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

TEL 03-3256-2451

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切四捨五入)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
22年3月期第3四半期	百万円 20,736	% △26.1	百万円 △1,314	% —	百万円 △1,224	% —	百万円 △949	% —
21年3月期第3四半期	28,052	—	219	—	537	—	△930	—
1株当たり四半期純利益			潜在株式調整後1株当たり四半期純利益					
円 銭			円 銭					
22年3月期第3四半期	△9.71		—					
21年3月期第3四半期	△9.51		—					

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
22年3月期第3四半期	百万円 51,411		百万円 39,357		% 76.5		円 銭 402.47	
21年3月期	54,446		40,506		74.3		414.13	

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 39,324百万円 21年3月期 40,467百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
21年3月期	円 銭 —	円 銭 5.00	円 銭 —	円 銭 1.00	円 銭 6.00
22年3月期	—	3.00	—		
22年3月期 (予想)				3.00	6.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
通期	百万円 29,000	% △18.0	百万円 △1,100	% —	百万円 △1,050	% —	百万円 △1,000	% —	円 銭 △10.23	

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- | | |
|-----------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う変更 | 無 |
| ② ①以外の変更 | 無 |
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- | | | |
|----------------------|-------------------------|-------------------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 22年3月期第3四半期 99,002,000株 | 21年3月期 99,002,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 22年3月期第3四半期 1,293,714株 | 21年3月期 1,286,411株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 22年3月期第3四半期 97,711,677株 | 21年3月期第3四半期 97,729,313株 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点において合理的であると判断するデータに基づいて作成しておりますが、様々な不確定要素が内在しているため、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料の3ページを参照してください。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、昨年来の景気悪化からの回復が低調で、一部で生産の回復や景気持ち直しの動きが見られたものの、円高基調が定着し、設備投資が大幅な減少のまま低迷するなど厳しい状況が続いております。

このような事業環境下で、当社グループは、国内自動車生産の低位ながらも安定回復しつつあるなか、生産体制の縮減の人員合理化などで収益向上に努めましたが、国内民間設備投資は国内生産の回復ほどには戻っておらず、大幅な需要減少の影響で、改善傾向ではあるものの減収減益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,736百万円(前年同期比26.1%減)、営業損失は1,314百万円(前年同期の営業利益は219百万円)、経常損失は1,224百万円(前年同期の経常利益は537百万円)、四半期純損失は949百万円(前年同期の四半期純損失は930百万円)となりました。

事業部門別の概況は次のとおりであります。

①【管材システム事業部門】

昨年来の景気低迷から一部の国内企業の生産は回復しつつありますが、なお国内設備投資には慎重で、特に工場着工は半減の状況で推移しました。このことにより、当事業部の主力製品であるプラント向け樹脂バルブ・パイプの需要が低位で推移したため売上高が大幅に減少しました。利益面におきましては、需要の低迷に対し生産体制の縮減等を図りコスト低減などを行いましたが、売上高減少の影響を補うまでには至りませんでした。

以上の結果、当事業部門の売上高は14,418百万円(前年同期比23.4%減)、営業損失は1,093百万円(前年同期の営業利益は340百万円)となりました。

②【樹脂事業部】

主力製品である鋳物用樹脂及びRCSは、自動車産業の国内生産の回復に伴い売上高も回復傾向にありますが、第2四半期までの減少を補うまでには至らず減収となりました。利益面におきましては、需要予測に応じた生産調整やコスト削減努力を行い、期中における売上高の回復に伴い、収益も回復基調となっていますが、第2四半期までの損失回復には至りませんでした。

それらの結果、当事業部門の売上高は6,317百万円(前年同期比31.5%減)、営業損失は222百万円(前年同期の営業損失は120百万円)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間末の資産は51,411百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,035百万円減少しました。これは流動資産の受取手形及び売掛金やたな卸資産などが減少したこと、有形固定資産の取得よりも減価償却費が上回ったことによるものであります。

負債は12,054百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,886百万円減少しました。これは主に短期借入金の減少によるものです。

純資産は39,357百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,149百万円減少しました。これはその四半期純損失や配当金の支払いによる株主資本が減少したことによるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、平成21年11月12日に公表しました通期業績予想を修正いたしました。

なお、当該予想に関する詳細につきましては、本日公表の「平成22年3月期通期業績予想数値の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

前連結会計年度末に算定した貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関して、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価格を見積り、簿価切下げを行なう方法によっております。

3 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。ただし、経営環境等、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められる場合は、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

4 未実現損益の消去

四半期連結会計期間末在庫高に占める当該棚卸資産の金額及び当該取引に係る損益率を合理的に見積って計算しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,444	3,332
受取手形及び売掛金	11,583	12,100
有価証券	—	8
たな卸資産	6,305	6,716
その他	1,557	1,439
貸倒引当金	△44	△65
流動資産合計	21,845	23,531
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,066	6,067
その他（純額）	8,504	9,023
有形固定資産合計	14,570	15,091
無形固定資産		
投資その他の資産	365	530
投資有価証券	10,449	10,484
その他	4,267	4,895
貸倒引当金	△85	△84
投資その他の資産合計	14,632	15,295
固定資産合計	29,566	30,915
資産合計	51,411	54,446
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,133	5,746
短期借入金	900	2,723
引当金	317	—
その他	1,792	2,365
流動負債合計	9,142	10,834
固定負債		
長期借入金	—	132
退職給付引当金	1,423	1,393
役員退職慰労引当金	263	234
その他	1,226	1,346
固定負債合計	2,912	3,106
負債合計	12,054	13,940
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,479	8,480
利益剰余金	26,702	28,042
自己株式	△549	△547
株主資本合計	39,633	40,975
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△38	△246
為替換算調整勘定	△271	△261
評価・換算差額等合計	△309	△508
少数株主持分	33	39
純資産合計	39,357	40,506
負債純資産合計	51,411	54,446

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	28,052	20,736
売上原価	19,873	15,302
売上総利益	8,179	5,434
販売費及び一般管理費	7,960	6,748
営業利益又は営業損失(△)	219	△1,314
営業外収益		
受取利息	154	73
受取配当金	285	163
持分法による投資利益	30	—
その他	95	71
営業外収益合計	564	307
営業外費用		
支払利息	21	16
持分法による投資損失	—	2
複合金融商品評価損	—	144
為替差損	193	41
その他	33	14
営業外費用合計	247	217
経常利益又は経常損失(△)	537	△1,224
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	16
特別利益合計	—	16
特別損失		
固定資産除売却損	13	11
投資有価証券評価損	1,878	73
退職特別加算金	—	29
その他	0	0
特別損失合計	1,891	113
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,354	△1,321
法人税等	△421	△366
少数株主損失(△)	△4	△6
四半期純損失(△)	△930	△949

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	管材システム事業(百万円)	樹脂事業(百万円)	計(百万円)	消去又は全社(百万円)	連結(百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	18,830	9,222	28,052	—	28,052
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	18,830	9,222	28,052	—	28,052
営業利益又は営業損失(△)	340	△ 120	219	—	219

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	管材システム事業(百万円)	樹脂事業(百万円)	計(百万円)	消去又は全社(百万円)	連結(百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	14,418	6,317	20,736	—	20,736
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	14,418	6,317	20,736	—	20,736
営業損失(△)	△ 1,093	△ 222	△ 1,314	—	△ 1,314

(注) 1 事業区分の方法

製品の種類、性質、製造方法、販売方法等類似性、損益集計区分及び関連資産等に照らし、事業区分を行なっております。

2 各事業の主要製品

事業区分	主要製品
管材システム事業	プラスチック製バルブ、パイプ、継手、フランジ、ガスケット、汚泥改質機構、電気透析脱塩装置、配管工事等のエンジニアリング、半導体関連機器の治工具洗浄装置等
樹脂事業	フェノール樹脂(鋳物用、発泡用、建材用、電子材料用、一般工業用等)、レジンコーテッドサンド、フェノール樹脂成形材料、ジアリルフタレート樹脂成形材料等

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	24,950	2,866	236	28,052	—	28,052
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,102	—	—	1,102	(1,102)	—
計	26,052	2,866	236	29,154	(1,102)	28,052
営業利益又は営業損失(△)	215	172	△ 148	239	(19)	219

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	18,135	2,348	253	20,736	—	20,736
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	724	—	88	812	(812)	—
計	18,859	2,348	341	21,548	(812)	20,736
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,273	128	△ 159	△ 1,304	(10)	△ 1,314

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	2,437	1,030	3,467
II 連結売上高(百万円)			28,052
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	8.7	3.7	12.4

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	2,212	880	3,092
II 連結売上高(百万円)			20,736
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.7	4.2	14.9

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本国以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 北米・・・・・米国、カナダ

(2) その他の地域・・・上記以外の欧州、中南米、アジア等の地域

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。